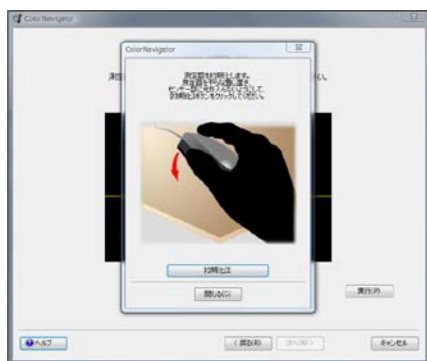


「ColorNavigator」でハードウェアキャリブレーションに挑戦!



3 調整目標が決まったら次はキャリブレーションツールの初期化。このときキャリブレーションツールの測定面を平らな所に置いて初期化する。



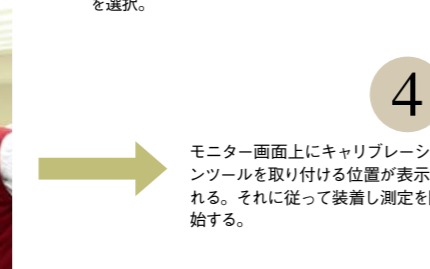
測定器を初期化
講師の森脇カメラマンが、キャリブレーションツールをパソコンの上に乗せ初期化を実演。



キャリブレーションするとプリントと色がそろう
顔料インクを採用したエプソン PX-5500 を使ってプリントした写真と液晶画面の画像を見比べる参加者。液晶モニターをキャリブレーションすることで、ここまで同じに見えることに驚いた表情だ。



2 カラーナビゲーターは初心者にもわかりやすく、リストから調整目標を選択することで液晶モニターを調整してくれる。「写真・デザイン一般設定」を選択。

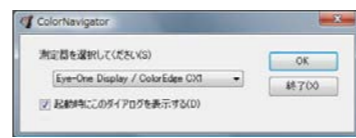


4 モニター画面上にキャリブレーションツールを取り付ける位置が表示される。それによって装着し測定を開始する。

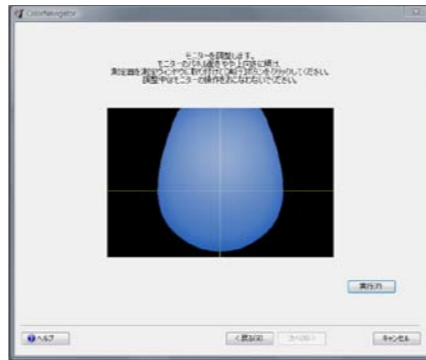
モニターを傾けて測定器を装着
念入りにキャリブレーションツールを装着する参加者。周りから光が入らないように、モニターを後ろに傾けて装着する。後は、ソフトが自動でキャリブレーションを行ってくれる。



株式会社ナナオ 山口省一さん
カラーエッジの開発に携わってきた山口氏も石川県の本社からアドバイザーとして駆けつけ、参加者の疑問に答えてくれた。



1 最新のハードウェアキャリブレーションソフト「カラーナビゲーター 5.0」は、使用するキャリブレーションツールを選択することから始まる。



5 キャリブレーションされた調整結果を表示。「保存」を押すとプロファイルが作成され終了。これだけの簡単な作業で正確なモニター調整が行なえる。

カラーエッジ CG241W ではじめる
カラーキャリブレーションセミナー

開催!



あのナナオ社のカラーエッジ CG241W が 11 台も並ぶ会場は圧巻で参加者も興奮気味のなか「CAPA&EIZO カラーキャリブレーションセミナー」は始まった。講師はもちろんカラーマネージメントの達人、森脇章彦カメラマンだ。



講師 森脇章彦



マンツーマン指導で大満足

参加者の中には団塊世代の写真愛好家の方も数多く見られた。講師の森脇カメラマンからマンツーマンの指導を受けながら、カラーキャリブレーションを体験。

特に注意したい点は、キャリブレーションツールである「アイワン」の取り扱い方。モニターを傾けて測定する方法や保管の仕方を伝授した。また、部屋の環境に合わせたモニターの明るさや色温度の設定の基本、出力時のレタッチソフトやプリンタードライバの設定方法など、参加者の疑問に答える形でセミナーを進む。最後に顔料インクを採用したエプソンのインクジェットプリンター PX-5500 で出力されたプリントと、キャリブレーションされた液晶画面の色を確認してもらい、液晶モニターの調整が正しければ、家庭でも正しい色のプリントが出力できることを体験してもらった。



液晶画面の背景をグレーに変更

写真画像を確認しやすいように、まずは液晶画面の背景を単色のグレーに設定することから始まった。参加者も「なるほど!」と感心!

デジタル写真を楽しむには液晶モニターこそ重要!

初級編
11月11日開催
ハードウェアキャリブレーション機能でカラーエッジを簡単カラー調整!

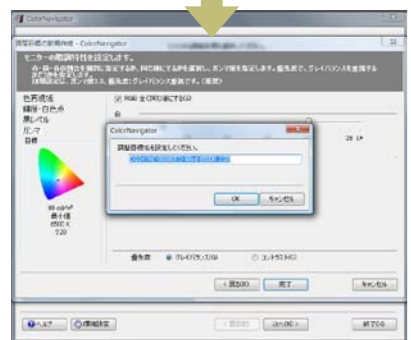
プリントの評価環境に合わせてモニターをキャリブレーション



3 ガンマ2.2、優先度：グレイバランスに調整目標を設定する。

2 液晶モニターの黒レベルを設定する画面だが、特殊な環境以外ではこの項目は触らないほうがよいことを紹介。

1 紙白測定でわかった部屋の光と紙の色の情報を元に目標値を設定し、もう一度キャリブレーションを取り直すことで、使用環境に合ったモニターの調整ができる。紙白測定の値を元に、あらかじめ任意の色温度を指定することも可能だ。



4 パソコン上で確認しやすいように、調整するモニタープロファイルに名前を付けておく習慣を付けよう。何かあったときすぐ選択できる。この後、キャリブレーションを実行する。



5 使用環境に合った目標値（色温度を変更した場合は明るさの目標値）でキャリブレーションされたモニタープロファイルの詳細な画面だ。「保存」をクリックすることでプロファイルが作成される。

プリントは評価用照明で確認



評価ボックスで正確な色を確認

エプソンのご協力で顔料インクを採用したPX-5500を使用してプリント。色温度を指定してキャリブレーションを行ない、標準光源の蛍光灯を使用した評価ボックスの中で、プリントの色を正確に確認する体験をしてもらった。

大人気のプリンタープロファイル作成



プロカメラマンの作業を見学

中級編セミナーの最後は、講師の森脇カメラマンが個々のプリンターに合ったプリンタープロファイルの作り方の一部を紹介。「プロはここまでやるのか!」と関心していた。

カラーエッジ 241W でデジタル写真を正しい色で見よう!

今回使用した、ナノオのカラーキャリブレーション対応モニター「カラーエッジ CG241W」は Adobe RGB を96%カバーする24.1型ワイド液晶パネルを採用した次世代のリファレンスモニターだ。センサーセットで20万9790円（直販サイト価格）と、とてもお買い得。また、ナノオはカラーエッジを使った無料カラーマッチングセミナーを直営店とWebサイト上で、定期的開催している。

<http://e-coloredge.com/>



こだわりをもって集まったセミナー参加者

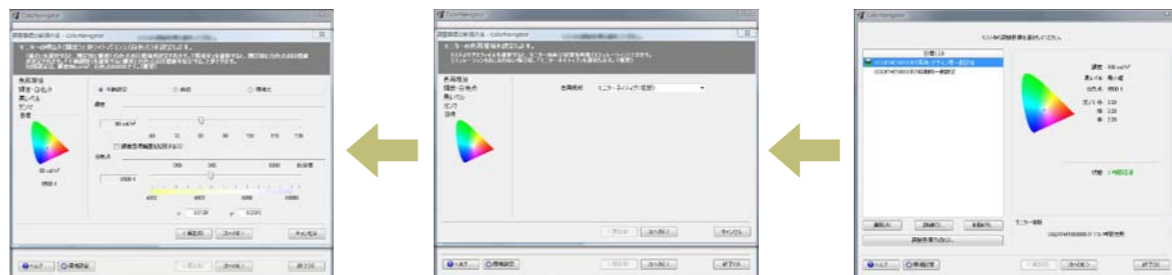
中級編のセミナーにも写真愛好家の方が多く集まった。すでにカラーエッジCG241Wをお持ちの方も参加され、新しいソフトに興味津々だ。

キャリブレーションは測定器の扱いが重要

キャリブレーションツールは色を測定する重要なアイテム。この機械を大切にすることで正しい色測定ができることを熱く語る!



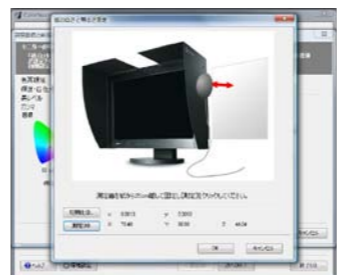
紙白測定機能で環境光を測定



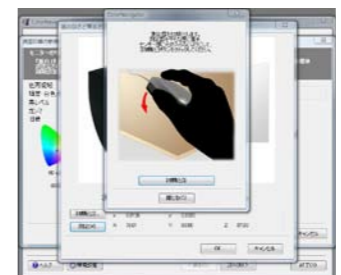
3 モニターの調整目標を自分で選択する画面。ここでは使用する部屋の明るさを測るため、便利な機能の一つである「紙白測定」機能を使用する。

2 「調整目標作成」を選択。Adobe RGB 相応の表示性能をフルに利用するため、色再現域を「モニターネイティブ」に設定する。

1 中級編では一度基本設定でキャリブレーションを行なったあと、パソコンの使用環境に合わせ明るさと色温度を設定する方法を説明。



6 キャリブレーションツールをプリント用紙から少し離して固定し、紙の白色点を測定。画面の「X」と「Y」の数値が、モニター使用環境の明るさだ。



5 液晶モニターをキャリブレーションした後なので、もう一度キャリブレーションツールを初期化して新たな測定の準備に入る必要がある。



4 画面上で紙白を選択することによってプリントに使用するペーパーが選択できるようになる。今回はエプソン純正用紙を使用した。

森脇カメラマンのチェックポイント!

紙白測定機能はプリント用紙の紙白を測定して、光や紙の性質によるプリント写真の見え方の情報をモニター側に伝えるのが役割だ。この機能を利用してモニタープロファイルを作っておくと、プリント専用のモニターとして使用できる。

キャリブレーションモニターを使いこなして写真を楽しむ

中級編のセミナーには、色に対する自分なりのこだわりを持った参加者が集まり、熱いセミナーとなった。最初は各自が持ち寄ったオリジナル画像をそのままプリントして、透過光表示の液晶モニターとプリントペーパーの紙白の違いを体感してもらった。

そのうえで、プリンターメーカーが配付しているプリンタープロファイルを使用してプリントする手順を紹介。その過程で出てきたいくつかの疑問について少ない時間だが、解答を見つけたら液晶モニターのキャリブレーションを体験してもらった。

デジタルカメラ同様、カラーキャリブレーションモニターも使い込んでこそ価値が実感できるので、今回のセミナーを通して各自がキャリブレーションモニターをうまく使いこなすヒントをつかんでくれれば幸いである。次回を計画したい気持ちでいっぱいだ。



2人で協力し紙白測定にチャレンジ

紙白測定機能を利用した応用編で、モニターの使用環境の明るさと色温度を割り出す方法を学ぶ参加者。

中級編
11月18日開催
キャリブレーションしたカラーエッジと
プリントのカラーマッチングは環境光が大切!